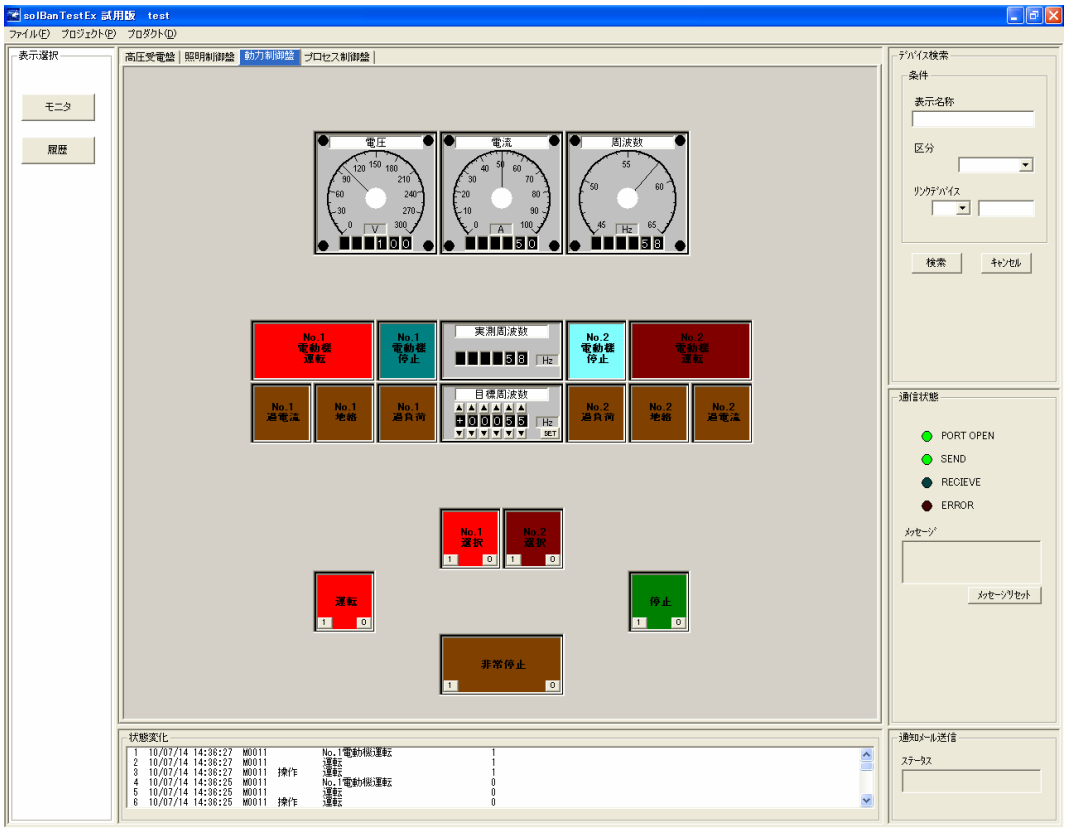
制御盤　シーケンサ
モニタリング・コントロールソフトウェア

solBanTest

ソルバンテスト



試用版

取扱説明書

REV:01Y　2010-10-21

目次

１．概要 ・・・・・・・・ 4
1-1　推奨動作環境 ・・・・・・・・ 4
1-2　版権・所有権 ・・・・・・・・ 4

２．インストール・アンインストール ・・・・・・・・ 5
2-1　インストール ・・・・・・・・ 5
2-2　アンインストール ・・・・・・・・ 5
３．操作 ・・・・・・・・ 6
3-1　起動 ・・・・・・・・ 6
3-2　設計 ・・・・・・・・ 7
3-2-1　部品の配置 ・・・・・・・・ 7
3-2-1-1　ﾍﾟｰｼﾞ追加 ・・・・・・・・ 7
3-2-1-2　ﾍﾟｰｼﾞ名の変更 ・・・・・・・・ 7
3-2-1-3　ﾍﾟｰｼﾞの移動 ・・・・・・・・ 7
3-2-1-4　ﾍﾟｰｼﾞの削除 ・・・・・・・・ 7
3-2-1-5　ﾍﾟｰｼﾞへの部品追加 ・・・・・・・・ 8
3-2-1-6　部品の移動 ・・・・・・・・ 9
3-2-1-7　部品の削除 ・・・・・・・・ 9
3-2-2　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨの設定 ・・・・・・・・10
3-2-3　ﾃﾞﾊﾞｲｽﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨの設定 ・・・・・・・・11
3-2-3-1　基本 ・・・・・・・・11
3-2-3-2　ﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽ ・・・・・・・・12
3-2-3-3　ﾒｰﾀ ・・・・・・・・13
3-2-3-4　通知 ・・・・・・・・14
3-2-4　ﾃﾞﾊﾞｲｽの検索 ・・・・・・・・15
3-3　実行 ・・・・・・・・16
3-3-1　接続 ・・・・・・・・16
3-3-1-1　RS232C接続の場合 ・・・・・・・・16
3-3-1-2　LAN接続の場合 ・・・・・・・・16

目次

3-3-2　実行　・・・・・・・17
3-3-2-1　通信状態　・・・・・・・17
3-3-2-2　ﾓﾆﾀ　・・・・・・・18
3-3-2-4　状態変化　・・・・・・・18
3-3-2-5　履歴　・・・・・・・19
3-3-2-6　通知メール送信　・・・・・・・19
3-3-3　ﾃﾞﾊﾞｲｽの検索　・・・・・・・20
3-4　保存　・・・・・・・21
3-4-1　名前を付けて保存　・・・・・・・21
3-4-2　上書き保存　・・・・・・・21
3-5　起動モード変更　・・・・・・・21
3-6　停止　・・・・・・・22
3-7　終了　・・・・・・・22
４．サポート　・・・・・・・23
５．保証および免責　・・・・・・・23
６．付録　・・・・・・・24
6-1　Aｼﾘｰｽﾞ設定用のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ例　TCP/IP　・・・・・・・24
6-2　Aｼﾘｰｽﾞ設定用のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ例　UDP/IP　・・・・・・・26

１．概要

solBanTestはお客様がお使いのシーケンサ（PLC）と通信を行ってその内部ﾃﾞﾊﾞｲｽの値をﾓﾆﾀし、値を書き換える機能を提供いたします。

ﾓﾆﾀ画面はお客様で簡単に設計できます。
ﾓﾆﾀ対象の追加・移動・削除などの改造もお客様自身で容易に行うことが可能です。

設計が完了したﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは実行ﾓｰﾄﾞに設定することで、お客様専用のﾓﾆﾀ装置として動作させることが出来ます。

PLCﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ動作確認ﾂｰﾙとして、工場での制御盤検査ﾂｰﾙとして、また、設置先での簡易監視制御ﾂｰﾙとして、様々な応用が可能です。

本ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄは、solBanTestのｲﾝｽﾄｰﾙ、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの設計・実行・保存などについて解説するものです。

ご一読いただき、お客様のお仕事の一助となることを、開発者一同心よりお祈りいたします。

1-1　推奨動作環境

OS　　WindowsXpSP2以上
　　WindowsVista(32)HomePremium以上
　　Windows7(32,64)HomePremium以上
CPU速度：1G以上
ﾒｲﾝﾒﾓﾘ：500MB以上
通信ﾎﾟｰﾄ：10BASET以上のEtherNetﾎﾟｰﾄ
　　RS232Cﾎﾟｰﾄ　または　RS232C変換器を介して接続するUSBﾎﾟｰﾄ

1-2　版権・所有権

solBanTestの版権・所有権は有限会社ｼﾞｭﾋﾞｯｸが保有します。

２．インストール・アンストール

2-1　インストール

setup.exeを実行します。
ﾌﾟﾛﾝﾌﾟﾄに従いｲﾝｽﾄｰﾙを行ってください。

「ﾊﾞｰｼﾞｮﾝの競合」ﾒｯｾｰｼﾞが表示された場合は「現在のﾌｧｲﾙを保持します＞はい」を選択して次に進みます。

2-2　アンインストール

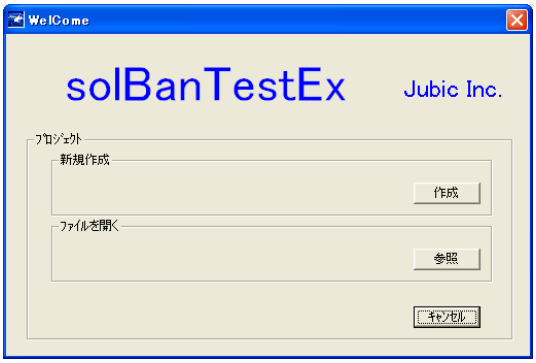
ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙを開き、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの追加と削除　を実行します。
solBanTestを選択して　削除　を実行します。

共有ﾌｧｲﾙの削除ﾒｯｾｰｼﾞが表示された場合、基本的にｲﾝｽﾄｰﾙしたﾌｧｲﾙのみを削除しますので「すべて削除」を選択していただいて良いのですが、
ご心配な場合は「JbcBtControls.ocx」のみ「削除」し、そのほかは「保存」しておいていただくようお願いいたします。

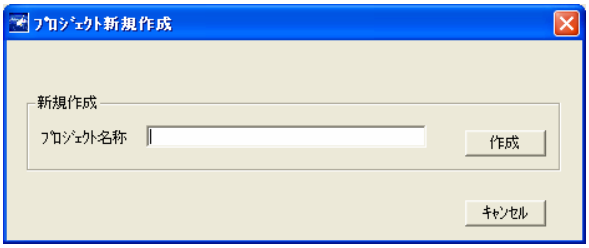
３．操作

3-1　起動

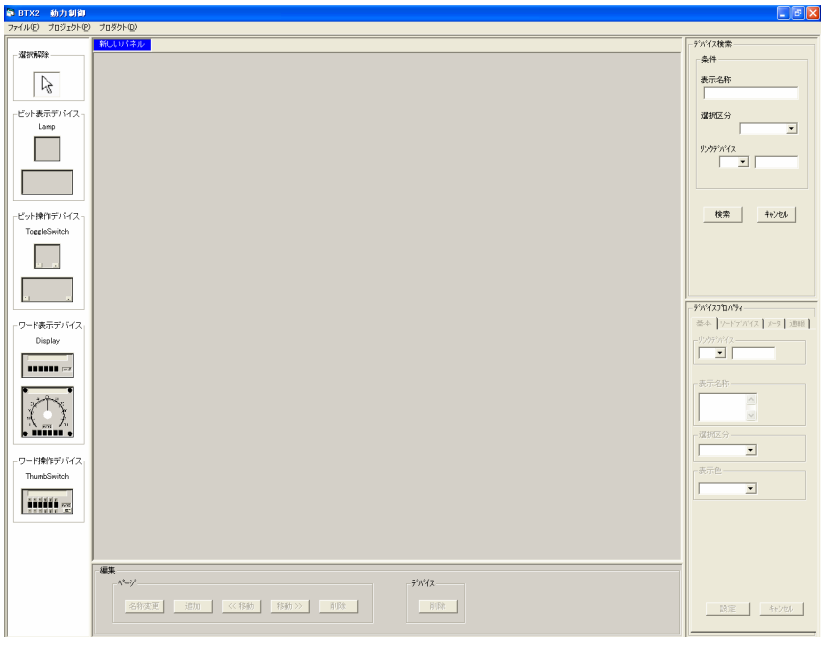
ｽﾀｰﾄ＞全てのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ＞ﾊﾞﾝﾃｽﾄをｸﾘｯｸします。
最初に現れるﾀﾞｲｱﾛｸﾞで　作成　または　参照　をｸﾘｯｸします。
作成
　　新規に新しいﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを作成します。
参照
　　すでに作成し保存されたﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを呼び出します。
以下は　作成　について説明します。



ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ新規作成ﾀﾞｲｱﾛｸﾞが表示されますので
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名称　入力して　作成　をｸﾘｯｸします。



設計画面が表示されます。



3-2　設計

3-2-1　部品の配置

3-2-1-1　ﾍﾟｰｼﾞ追加

ﾍﾟｰｼﾞ上部のﾍﾟｰｼﾞ名称ﾀﾌﾞをｸﾘｯｸします。
画面下部の編集ﾎﾞｯｸｽのﾍﾟｰｼﾞﾎﾞﾀﾝが有効になります。
ﾍﾟｰｼﾞ追加ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると「新しいﾍﾟｰｼﾞ」が追加されます。

3-2-1-2　ﾍﾟｰｼﾞ名の変更

名称変更するﾍﾟｰｼﾞ上部のﾍﾟｰｼﾞ名称ﾀﾌﾞをｸﾘｯｸします。
画面下部の編集ﾎﾞｯｸｽのﾍﾟｰｼﾞﾎﾞﾀﾝが有効になります。
ﾍﾟｰｼﾞ名称変更ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸするとﾍﾟｰｼﾞ名称ﾀﾌﾞが入力状態になります。
ｷｰﾎﾞｰﾄﾞから新しい名称を入力し、Enterｷｰで確定します。

3-2-1-3　ﾍﾟｰｼﾞの移動

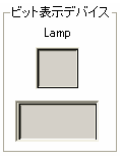
移動するﾍﾟｰｼﾞ上部のﾍﾟｰｼﾞ名称ﾀﾌﾞをｸﾘｯｸします。
画面下部の編集ﾎﾞｯｸｽのﾍﾟｰｼﾞﾎﾞﾀﾝが有効になります。
<<移動（左）または移動>>（右）ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると1ﾍﾟｰｼ分移動します。

3-2-1-4　ﾍﾟｰｼﾞの削除

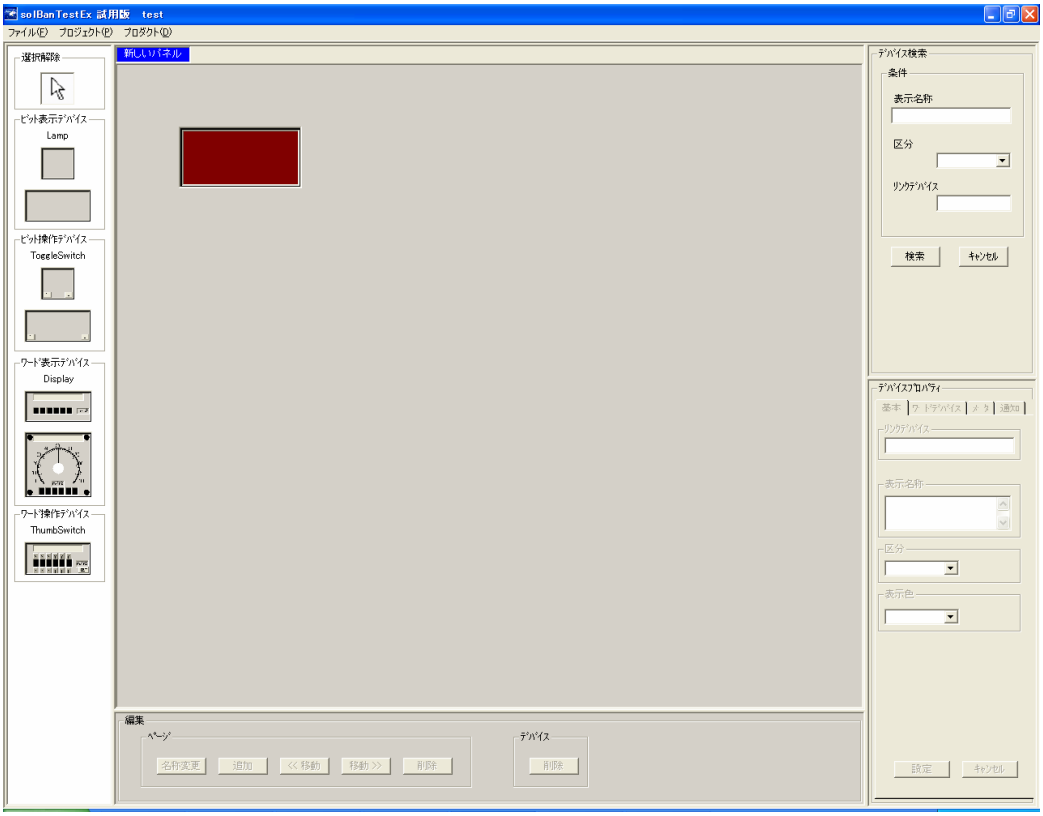
削除するﾍﾟｰｼﾞ上部のﾍﾟｰｼﾞ名称ﾀﾌﾞをｸﾘｯｸします。
画面下部の編集ﾎﾞｯｸｽのﾍﾟｰｼﾞﾎﾞﾀﾝが有効になります。
ﾍﾟｰｼﾞ削除ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸするとﾍﾟｰｼﾞが削除されます。
ﾍﾟｰｼﾞを削除するとそのﾍﾟｰｼﾞに配置されている部品も一緒に削除されます。
やりなおしなどで復活させることはできませんので慎重に操作してください。

3-2-1-5　ﾍﾟｰｼﾞへの部品追加

左のﾂｰﾙﾎﾞｯｸｽから部品を選び、ｸﾘｯｸして選択状態にします。
選択された部品が凹表示に変わり、ﾏｳｽｱｲｺﾝが＋表示になります。



部品を配置したい位置でﾀﾞﾌﾞﾙｸﾘｯｸします。
選択した部品が追加配置されます。



部品の説明

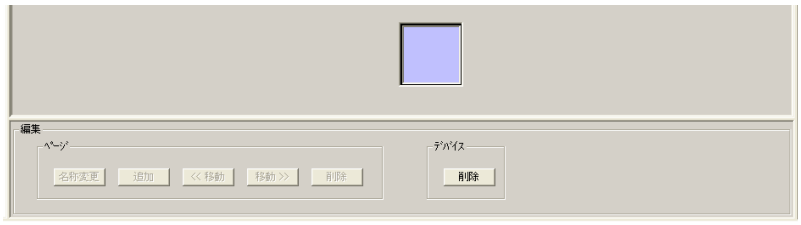
・ﾋﾞｯﾄ表示ﾃﾞﾊﾞｲｽ
　接点ﾃﾞﾊﾞｲｽの表示に用います。大きさは２種類あります。機能はどちらも同じです。
　ﾃﾞﾊﾞｲｽ値が１の時に点灯（明色）、０の時に消灯（暗色）表示になります。
・ﾋﾞｯﾄ操作ﾃﾞﾊﾞｲｽ
　接点ﾃﾞﾊﾞｲｽの操作に用います。大きさは２種類あります。機能どちらもは同じです。
　１ﾎﾞﾀﾝで１を、０ﾎﾞﾀﾝで０をﾃﾞﾊﾞｲｽに書き込みます。
　表示はﾃﾞﾊﾞｲｽの現在値を示します。操作値ではありません。
　操作の結果、ﾃﾞﾊﾞｲｽ値が変化すれば表示が変化します。
・ﾜｰﾄﾞ表示ﾃﾞﾊﾞｲｽ
　16ﾋﾞｯﾄﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽの表示に用います。ﾃﾞｼﾞﾀﾙ表示とｱﾅﾛｸﾞ表示の２種類があります。
　32ﾋﾞｯﾄ表示をしたい場合はこれを２個使用してください。
・ﾜｰﾄﾞ操作ﾃﾞﾊﾞｲｽ
　16ﾋﾞｯﾄﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽの操作に用います。△▽で値を設定しSETﾎﾞﾀﾝでﾃﾞﾊﾞｲｽに書き込みます。
　表示はﾃﾞﾊﾞｲｽの設定値を示します。現在値ではありません。
　操作の結果、ﾃﾞﾊﾞｲｽ値が変化しても表示は変化しません。
　32ﾋﾞｯﾄ操作をしたい場合はこれを２個使用してください。

3-2-1-6　部品の移動

移動する部品をﾄﾞﾗｯｸﾞし、目的の位置でﾄﾞﾛｯﾌﾟします。
ﾍﾟｰｼﾞ名称ﾀﾌﾞへﾄﾞﾗｯｸﾞするとﾍﾟｰｼﾞが切り替わります。
ﾍﾟｰｼﾞをまたぐ移動ができます。
大きい部品は部品の左上をつかむと目的の位置へうまくﾄﾞﾛｯﾌﾟすることが出来ます。

3-2-1-7　部品の削除

削除する部品をｸﾘｯｸします。
画面下部の編集ﾎﾞｯｸｽのﾃﾞﾊﾞｲｽﾎﾞﾀﾝが有効になります。
ﾃﾞﾊﾞｲｽ削除ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると部品が削除されます。
やりなおしなどで復活させることはできませんので慎重に操作してください。
ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨが設定されていないﾃﾞﾊﾞｲｽの削除時は、確認ﾀﾞｲｱﾛｸﾞは表示されません。



3-2-2　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨの設定

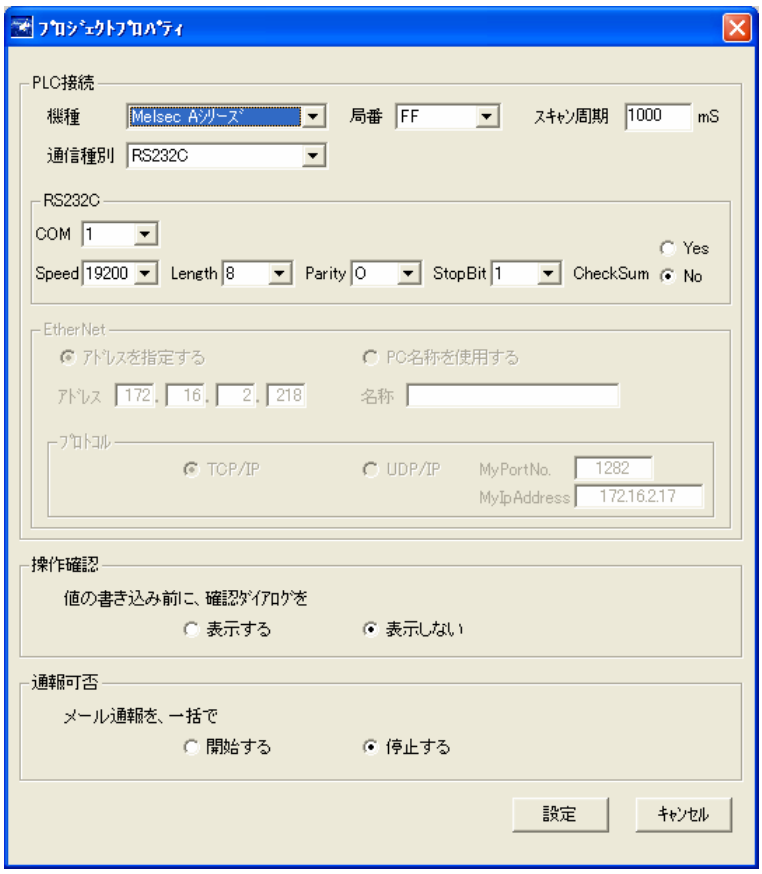
通信の相手・操作確認方法・通報可否を設定します。
ﾒﾆｭｰ　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ　でﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨを開きます。

PLC接続
　通信相手PLCの機種・通信手段・ｱﾄﾞﾚｽ等を設定します。

操作確認
　値の書込まえに操作確認ﾀﾞｲｱﾛｸﾞを表示するかしないかを設定します。

通報可否
　ﾃﾞﾊﾞｲｽに設定された通報動作を一括で停止、開始するかを設定します。

ﾀﾞｲｱﾛｸﾞ下の設定ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸし、確定を確定します。



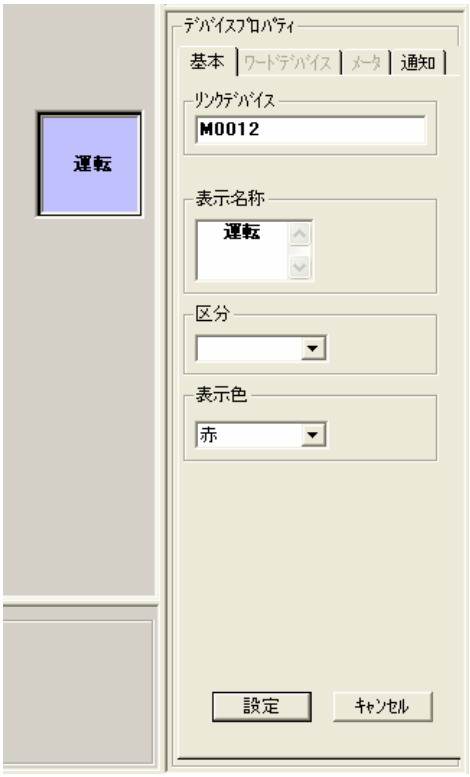
3-2-3　ﾃﾞﾊﾞｲｽﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨの設定

ﾃﾞﾊﾞｲｽをｸﾘｯｸして選択状態にします。
画面右下のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨﾎﾞｯｸｽが有効になります。

3-2-3-1　基本

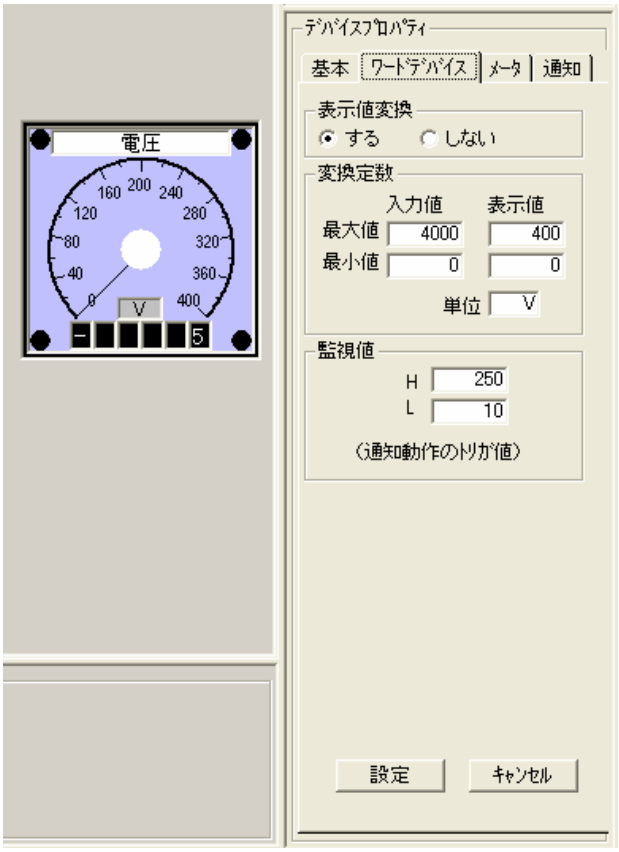
ﾘﾝｸﾃﾞﾊﾞｲｽ
　PLCの接点ﾃﾞﾊﾞｲｽを指定します。
表示名称
　ﾃﾞﾊﾞｲｽに表示する名称を入力します。
区分
　接点ﾃﾞﾊﾞｲｽの区分を指定します。
　履歴情報画面ではこの区分毎に選択表示させることが出来ます。
　　例：重故障　軽故障　運転　など
　登録する名称を入力します。
　すでに登録されている区分名称はﾄﾞﾛｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾘｽﾄに表示されますのでそこから選択することもできます。
表示色
　接点ﾃﾞﾊﾞｲｽの表示色（ﾗﾝﾌﾟ色）をﾄﾞﾛｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾘｽﾄから選択します。

ﾎﾞｯｸｽ下部の設定ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸして確定します。



表示値変換
　表示値変換するしないを指定します。
　しない場合はﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽの値を10進整数で表示します。
　する場合は後述の変換定数に従い値を変換して表示します。
変換定数
　入力値（ﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽの値）を表示値に直線変換して表示します。
　例えばﾘﾝｸ先のﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽの値800～4000を0～400Vと表示させたい場合は
　　入力値（最大値：4000　最小値：800）表示値（最大値：400　最小値：0）
　と設定します。
監視値
　後述するﾒｰﾙ通知を行う場合のﾄﾘｶﾞ値を指定します。
　Hは低い値から高い値への変化時のﾄﾘｶﾞ
　Lは高い値から低い値への変化時のﾄﾘｶﾞを示します。
　検出には上記変換を行った後の表示値を使用します。
　ﾘﾝｸ先のﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽの値で指定したい場合は、表示変換を選択し
　入力値（最大値：65535　最小値：0）表示値最大値：65535　最小値：0）
　と設定してください。

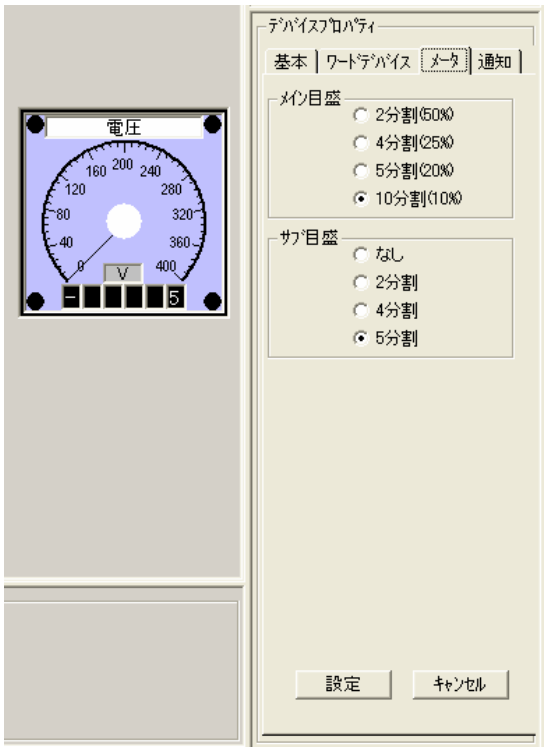
ﾎﾞｯｸｽ下部の設定ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸして確定します。



3-2-3-3　ﾒｰﾀ

ﾒｲﾝ目盛
　長いﾃｨｯｸﾏｰｸを表示する分割数を選択します。
　ﾒｰﾀには最大値から最小値を引いた値の分割数値が表示されます。
表示名称
　ﾒｲﾝ目盛を分割する短いﾃｨｯｸﾏｰｸを表示する分割数を選択します。

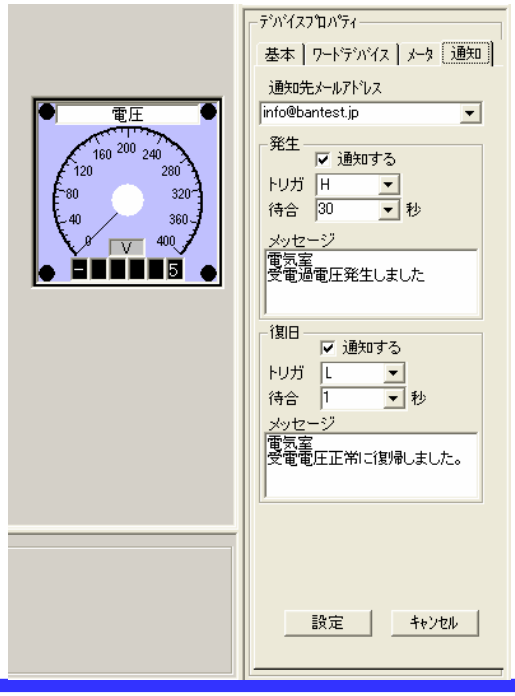
ﾎﾞｯｸｽ下部の設定ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸして確定します。



3-2-3-4　通知

通知先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ
　登録する通知先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽを入力します。
　すでに登録されている通知先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽはﾄﾞﾛｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾘｽﾄに表示されますので
　そこから選択することもできます。
　ｱﾄﾞﾚｽが間違っていると通知が失敗し　届かない　ということになりますので
　よく確認してください。
発生
　通知する
　　条件を満足したときに通知を行う場合にﾁｪｯｸします。
　ﾄﾘｶﾞ
　　ﾄﾘｶﾞのﾚﾍﾞﾙを選択します。
　　ﾋﾞｯﾄﾃﾞﾊﾞｲｽは0/1　ﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽはH/Lになります。
　待ち合わせ
　　ﾄﾘｶﾞを検出して通知ﾒｰﾙを送信するまでの待ち合わせ時間を選択します。
　　待ち合わせ中に復旧ﾄﾘｶﾞを検出すると通知動作をｷｬﾝｾﾙします。
　メッセージ
　　通知ﾒｰﾙにて送信するﾒｯｾｰｼﾞを入力します。
復旧
　通知する
　　条件を満足したときに通知を行う場合にﾁｪｯｸします。
　ﾄﾘｶﾞ
　　ﾄﾘｶﾞのﾚﾍﾞﾙを選択します。
　　ﾋﾞｯﾄﾃﾞﾊﾞｲｽは0/1　ﾜｰﾄﾞﾃﾞﾊﾞｲｽはH/Lになります。
　待ち合わせ
　　ﾄﾘｶﾞを検出して通知ﾒｰﾙを送信するまでの待ち合わせ時間を選択します。
　　待ち合わせ中に発生ﾄﾘｶﾞを検出すると通知動作をｷｬﾝｾﾙします。
　メッセージ
　　通知ﾒｰﾙにて送信するﾒｯｾｰｼﾞを入力します。

ﾎﾞｯｸｽ下部の設定ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸして確定します。



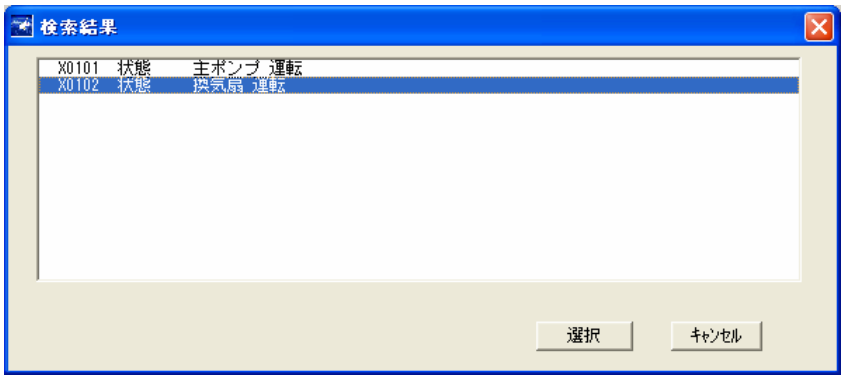
3-2-4　ﾃﾞﾊﾞｲｽの検索

配置した部品が多くなると、その位置が分からなくなることがあります。
こういう場合にﾃﾞﾊﾞｲｽ検索を使用します。

条件
　表示名称
　　ﾃﾞﾊﾞｲｽﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨに設定した表示名称を入力します。
　　名称の一部だけでも検索可能です。
　　ｽﾍﾟｰｽも検索対象になりますので複数のｷｰﾜｰﾄﾞをｽﾍﾟｰｽ区切りで入力すると
　　結果が出ないことがあります。
　区分
　　ﾃﾞﾊﾞｲｽﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨに設定した区分を選択します。
　ﾘﾝｸﾃﾞﾊﾞｲｽ
　　ﾃﾞﾊﾞｲｽﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨに設定したﾘﾝｸﾃﾞﾊﾞｲｽを入力します。
　入力された条件は　AND　で検索されます。

ﾀﾞｲｱﾛｸﾞ下の検索ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると検索結果が表示されます。

一覧から該当するﾃﾞﾊﾞｲｽﾘｽﾄをｸﾘｯｸして反転表示し、選択ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると
その部品が収納されたﾍﾟｰｼﾞに切り替わり、部品が選択色で点滅します。



3-3　実行

3-3-1　接続

3-3-1-1　RS232C接続の場合

PLCからの通信線をPCに接続します。
RS232Cの場合はPCのRS232Cﾎﾟｰﾄへ直接接続します。
PCにRS232Cﾎﾟｰﾄが無い場合は更にUSB変換器を介してUSBへ接続します。

ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ＞ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ＞ﾊｰﾄﾞｳｪｱ＞ﾃﾞﾊﾞｲｽﾏﾈｰｼﾞｬを開き、ﾎﾟｰﾄ（COMとLPT）の通信ﾎﾟｰﾄが有効になっていることとCOMの番号を確認します。

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨを開き、PLC接続通信種別RS232Cを選択し、COMの番号を上記の値に設定します。

PLC側の設定は以下のようにしてください。

	ﾓｰﾄﾞ	許可
Aｼﾘｰｽﾞ	専用ﾌﾟﾛﾄｺﾙ形式4	RUN中書込許可
Qｼﾘｰｽﾞ	MCﾌﾟﾛﾄｺﾙ　形式4	RUN中書込許可
Fｼﾘｰｽﾞ	専用ﾌﾟﾛﾄｺﾙ形式4	RUN中書込許可

通信ｽﾋﾟｰﾄﾞ・ﾊﾟﾘﾃｨ・ﾃﾞｰﾀ長・ﾁｪｯｸｻﾑ等はsolBanTestの設定に合わせます。

3-3-1-2　LAN接続の場合

PLCが接続されているﾈｯﾄﾜｰｸと接続するLANｹｰﾌﾞﾙをPCに接続します。

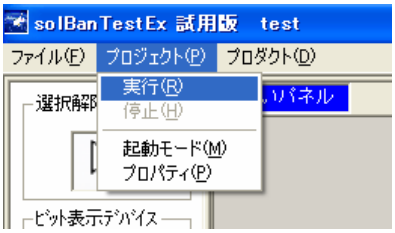
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨを開き、PLC接続通信種別EtherNetを選択して、PLCに割り当てたIPｱﾄﾞﾚｽを設定します。
TCPまたはUDPを設定します。UDPの場合はPC側のﾎﾟｰﾄ番号MyPortNo.を指定できますが、不都合がない限りそのままお使いになることをお薦めいたします。
DNSが設定されている場合はPC名称で接続することも可能です。
DNSの設定についてはﾈｯﾄﾜｰｸ管理者にご確認ください。
Windowsﾌｧｲﾔｰｳｫｰﾙ有効を設定してると、UDPの場合には通信がﾌﾞﾛｯｸされることがありますので、ﾒｯｾｰｼﾞが表示された場合は「ﾌﾞﾛｯｸを解除する」をｸﾘｯｸしてください。

PLC側の設定は以下のようにしてください。
ﾃﾞｰﾀｺｰﾄﾞ　「ASCIIｺｰﾄﾞで交信を行う」にします。
CPU交信ﾀｲﾐﾝｸﾞ　「CPU RUN中でも他ﾉｰﾄﾞから書込を行う」にします。
PLCに割り振られたIPｱﾄﾞﾚｽを設定します。
PLC側（ﾛｰｶﾙ）のﾎﾟｰﾄ番号を「1280」に設定します。
TCPの場合
Unpassiveでｵｰﾌﾟﾝするにします。
TCPﾀｲﾑｱｳﾄｴﾗｰ発生時回線設定　回線をｸﾛｰｽﾞするにします。
UDPの場合
PC側（ﾘﾓｰﾄ）のﾎﾟｰﾄ番号　ﾃﾞﾌｫﾙﾄの「1282」を設定します。
ﾎﾟｰﾄ番号が他のｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝと競合する場合は適当な番号に書き換え、その値をﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨに設定します。
PC側（ﾘﾓｰﾄ）のIP　PCのIPｱﾄﾞﾚｽを設定します。
PCが正常にﾈｯﾄﾜｰｸにつながっている場合は、PCのIPｱﾄﾞﾚｽはﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨのMyIpAddressに正しい値が表示されます。

AｼﾘｰｽﾞPLC設定用のﾗﾀﾞｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ例は付録をご参照ください。

3-3-2　実行

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞実行をｸﾘｯｸします。



3-3-2-1　通信状態

画面右中段の通信状態を確認します。
SEND/RECEIVEが点滅していれば通信は正常に行われています。
ERRORが点灯しているときはﾒｯｾｰｼﾞを参考にして通信ﾊﾟﾗﾒｰﾀの確認をしてください。
RECEIVEが点灯しない場合は接続が切れているかﾃﾞﾊﾞｲｽに有効なﾘﾝｸ先が設定されていないことが考えられます。

3-3-2-2　ﾓﾆﾀ

通信状態が正常ならばﾃﾞﾊﾞｲｽに設定されたﾘﾝｸ先の状態が表示されます。

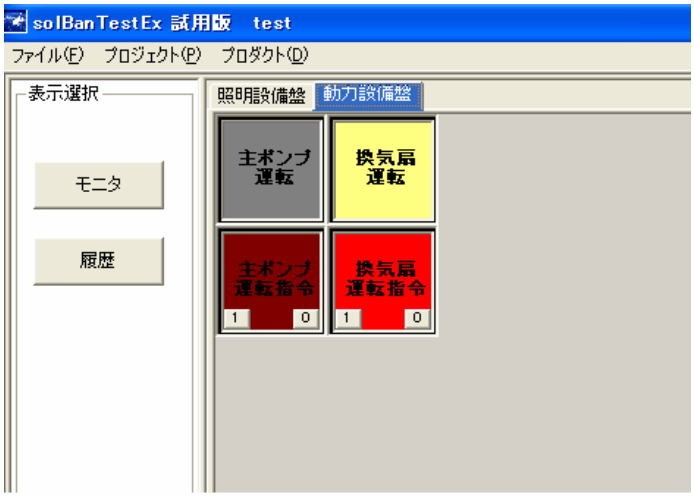
3-3-2-3　操作

ﾋﾞｯﾄ操作ﾃﾞﾊﾞｲｽ

１ﾎﾞﾀﾝで１を、０ﾎﾞﾀﾝで０をﾘﾝｸ先ﾃﾞﾊﾞｲｽに書き込みます。
表示はﾃﾞﾊﾞｲｽの現在値を示します。操作値ではありません。
操作の結果、ﾃﾞﾊﾞｲｽ値が変化すれば表示が変化します。

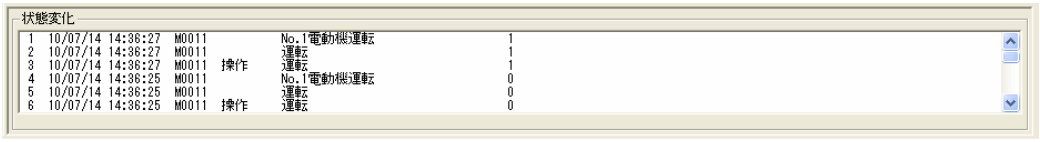
ﾜｰﾄﾞ操作ﾃﾞﾊﾞｲｽ

SETﾎﾞﾀﾝで設定値をﾘﾝｸ先ﾃﾞﾊﾞｲｽに書き込みます。
表示はﾃﾞﾊﾞｲｽの設定値を示します。現在値ではありません。
操作の結果、ﾃﾞﾊﾞｲｽ値が変化しても表示は変化しません。
32ﾋﾞｯﾄ操作をしたい場合はこれを２個使用してください。



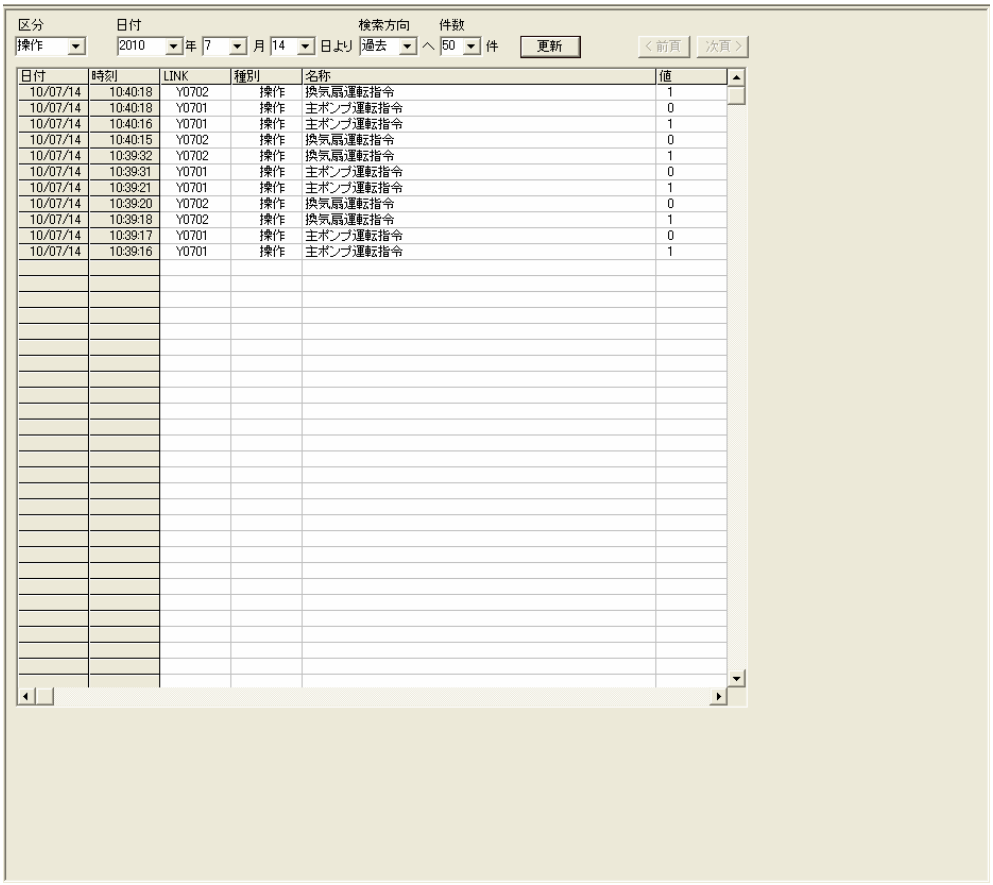
3-3-2-4　状態変化

通信の結果、状態変化が検出されたときにその変化を記録します。
直近の20件は画面下部の状態変化に表示されます。



3-3-2-5　履歴

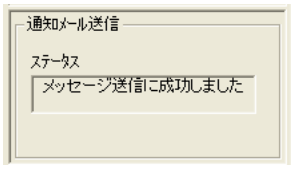
通信の結果、状態変化が検出されたときにその変化を記録します。
画面右の表示選択の履歴ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると履歴画面が表示されます。
履歴は　区分　日付　で選択表示することが出来ます。
記録される状態変化の記録数は最大3000件です。3000件を越えると新しい変化が発生すると古い変化記録から順に削除されます。



日付	時刻	LINK	種別	名称	値
10/07/14	10:40:18	Y0702	操作	換気扇運転指令	1
10/07/14	10:40:18	Y0701	操作	主ポンプ運転指令	0
10/07/14	10:40:16	Y0701	操作	主ポンプ運転指令	1
10/07/14	10:40:15	Y0702	操作	換気扇運転指令	0
10/07/14	10:39:32	Y0702	操作	換気扇運転指令	1
10/07/14	10:39:31	Y0701	操作	主ポンプ運転指令	0
10/07/14	10:39:21	Y0701	操作	主ポンプ運転指令	1
10/07/14	10:39:20	Y0702	操作	換気扇運転指令	0
10/07/14	10:39:18	Y0702	操作	換気扇運転指令	1
10/07/14	10:39:17	Y0701	操作	主ポンプ運転指令	0
10/07/14	10:39:16	Y0701	操作	主ポンプ運転指令	1

3-3-2-6　通知メール送信

通知ﾒｰﾙが送信されるようになると画面右下段にそのｽﾃｰﾀｽが表示されます。



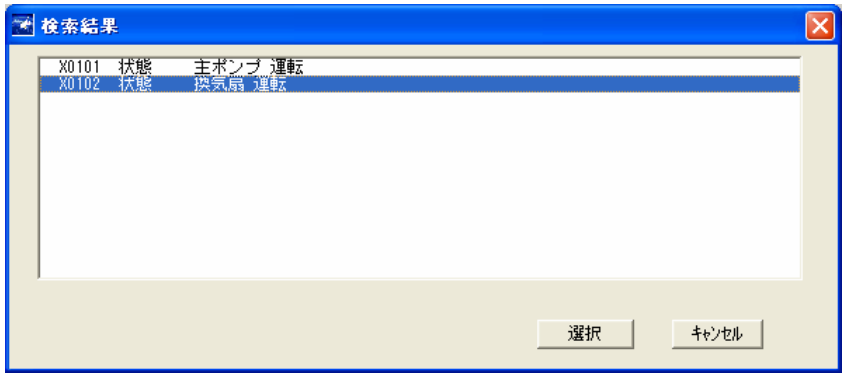
3-3-3　ﾃﾞﾊﾞｲｽの検索

配置した部品が多くなると、その位置が分からなくなることがあります。
こういう場合にﾃﾞﾊﾞｲｽ検索を使用します。

条件
　表示名称
　　ﾃﾞﾊﾞｲｽﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨに設定した表示名称を入力します。
　　名称の一部だけでも検索可能です。
　　ｽﾍﾟｰｽも検索対象になりますので複数のｷｰﾜｰﾄﾞをｽﾍﾟｰｽ区切りで入力すると
　　結果が出ないことがあります。
　区分
　　ﾃﾞﾊﾞｲｽﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨに設定した区分を選択します。
　ﾘﾝｸﾃﾞﾊﾞｲｽ
　　に設定したﾘﾝｸﾃﾞﾊﾞｲｽを入力します。
　入力された条件は　AND　で検索されます。

ﾀﾞｲｱﾛｸﾞ下の検索ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると検索結果が表示されます。

一覧から該当するﾃﾞﾊﾞｲｽﾘｽﾄをｸﾘｯｸして反転表示し、選択ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸすると
その部品が収納されたﾍﾟｰｼﾞに切り替わり、部品が選択色で点滅します。



3-4　保存

設計したﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを保存します。

3-4-1　名前を付けて保存

ﾒﾆｭｰ　ﾌｧｲﾙ＞名前を付けて保存　をｸﾘｯｸします。
ﾌｧｲﾙﾀﾞｲｱﾛｸﾞが表示されます。
保存する場所を選択し、名称を付けて保存します。
ﾌｧｲﾙ拡張子は固定ですので記述する必要はありません。

3-4-2　上書き保存

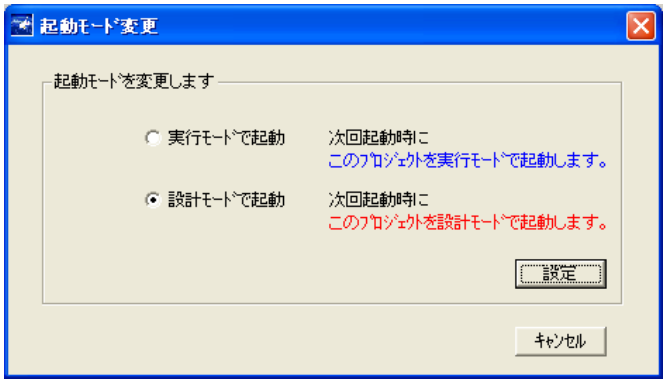
ﾒﾆｭｰ　ﾌｧｲﾙ＞上書き保存　をｸﾘｯｸします。
確認ﾀﾞｲｱﾛｸﾞが表示されますので　OK　をｸﾘｯｸします。

3-5　起動モード変更

solBanTestが起動するときの動作ﾓｰﾄﾞを設定します。
この設定は次回起動されるときに反映されます。

ﾒﾆｭｰ　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞起動ﾓｰﾄﾞ　をｸﾘｯｸします。
起動ﾓｰﾄﾞ変更ﾀﾞｲｱﾛｸﾞが表示されます。

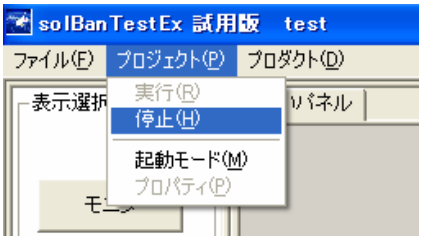
実行ﾓｰﾄﾞで起動
　次回起動時に実行ﾓｰﾄﾞで起動します。
　実行されるﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは、現在開いているものとなります。
　すでにそのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが保存されていることが設定の条件となります。
　実行ﾓｰﾄﾞで起動されると、実行中に設計ﾓｰﾄﾞへ移行させることはできません。
設計ﾓｰﾄﾞで起動
　次回起動時に設計ﾓｰﾄﾞで起動します。
　編集されるﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは、ﾀﾞｲｱﾛｸﾞで選択できます。
　設計ﾓｰﾄﾞで起動された場合は、設計中に実行ﾓｰﾄﾞへ移行させることができます。



3-6　停止

実行中のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを停止します。

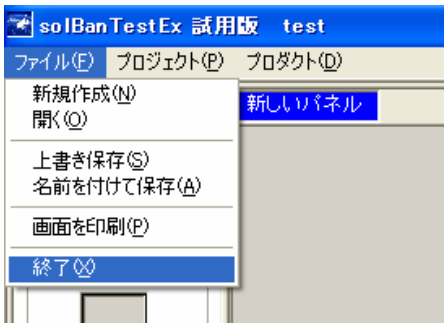
ﾒﾆｭｰ　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ＞停止　をｸﾘｯｸします。
実行中に記録された状態変化は自動的に保存されます。



3-7　終了

solBanTestを終了します。

ﾒﾆｭｰ　ﾌｧｲﾙ＞終了　をｸﾘｯｸします。
ｳｲﾝﾄﾞｳ右上の×をｸﾘｯｸして終了させることも出来ます。



４．サポート

本製品に関するお問い合わせ等は「E-Mail：support@jubic-inc. com」からお願いいたします。
また、本製品は出荷前に十分な評価を行っておりますが、万が一不具合や、改善のご提案がございましたら是非ご連絡をお願いいたします。
次期バージョン作成時の参考とさせていただきます。

尚、諸般の事情により「E-Mail：support@jubic-inc. com」からのみにて対応させていただいております。
何卒ご理解の程、宜しくお願いいたします。

５．保証および免責

試用版（サンプル版）への保証はございません。
試用版をお使いのシステムで生じた不具合・損害等について、すべて免責とさせていただきます。
試用に際しましては、十分な評価試験を行って頂いたとしても、生命に関わるシステムなど、重要な機能を有するシステムへの使用はご遠慮ください。

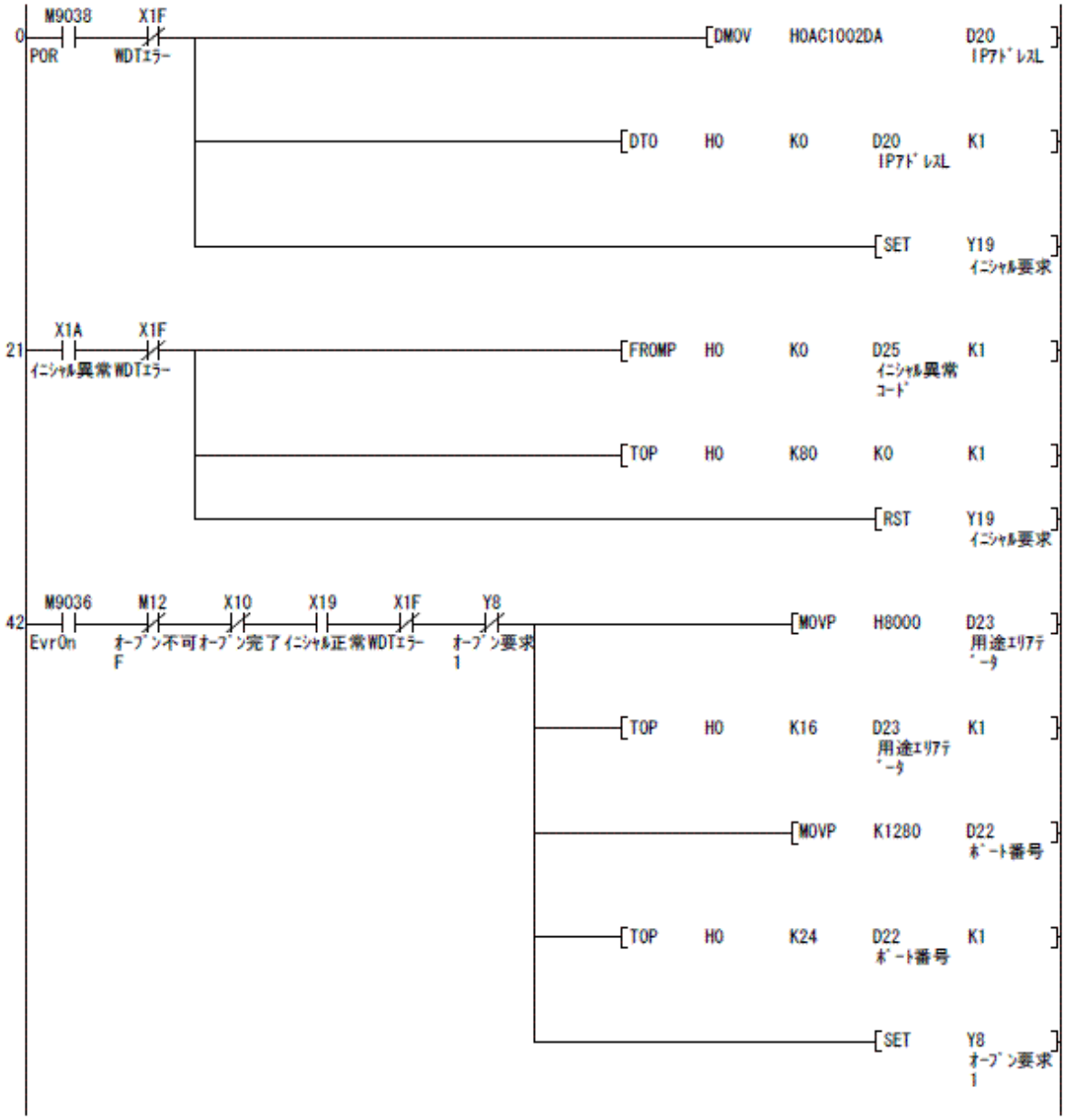
商標および著作権について

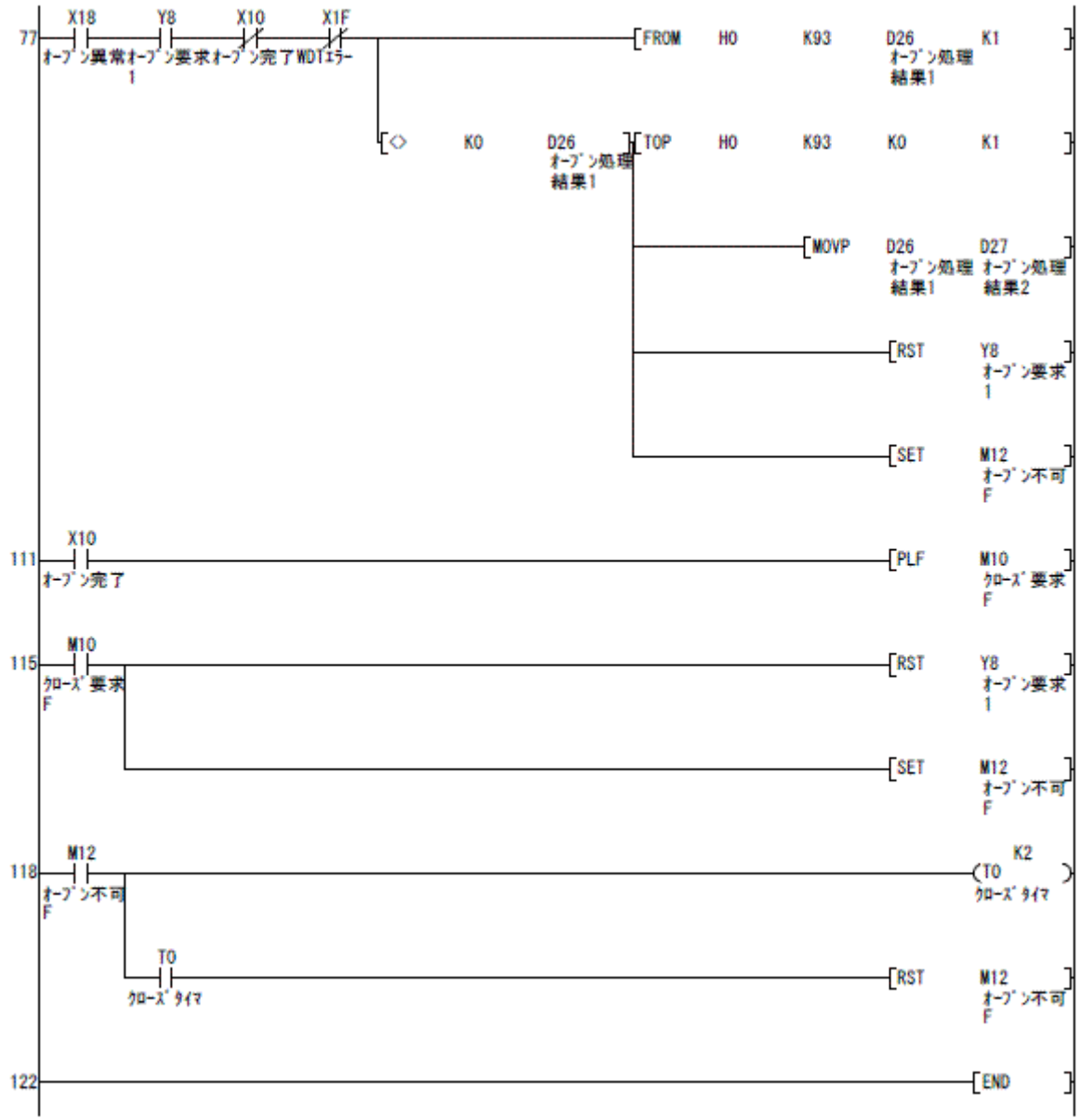
solBanTestは有限会社ｼﾞｭﾋﾞｯｸの登録商標です。
solBanTestおよび本ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄの著作権は㈲ｼﾞｭﾋﾞｯｸに帰属します。

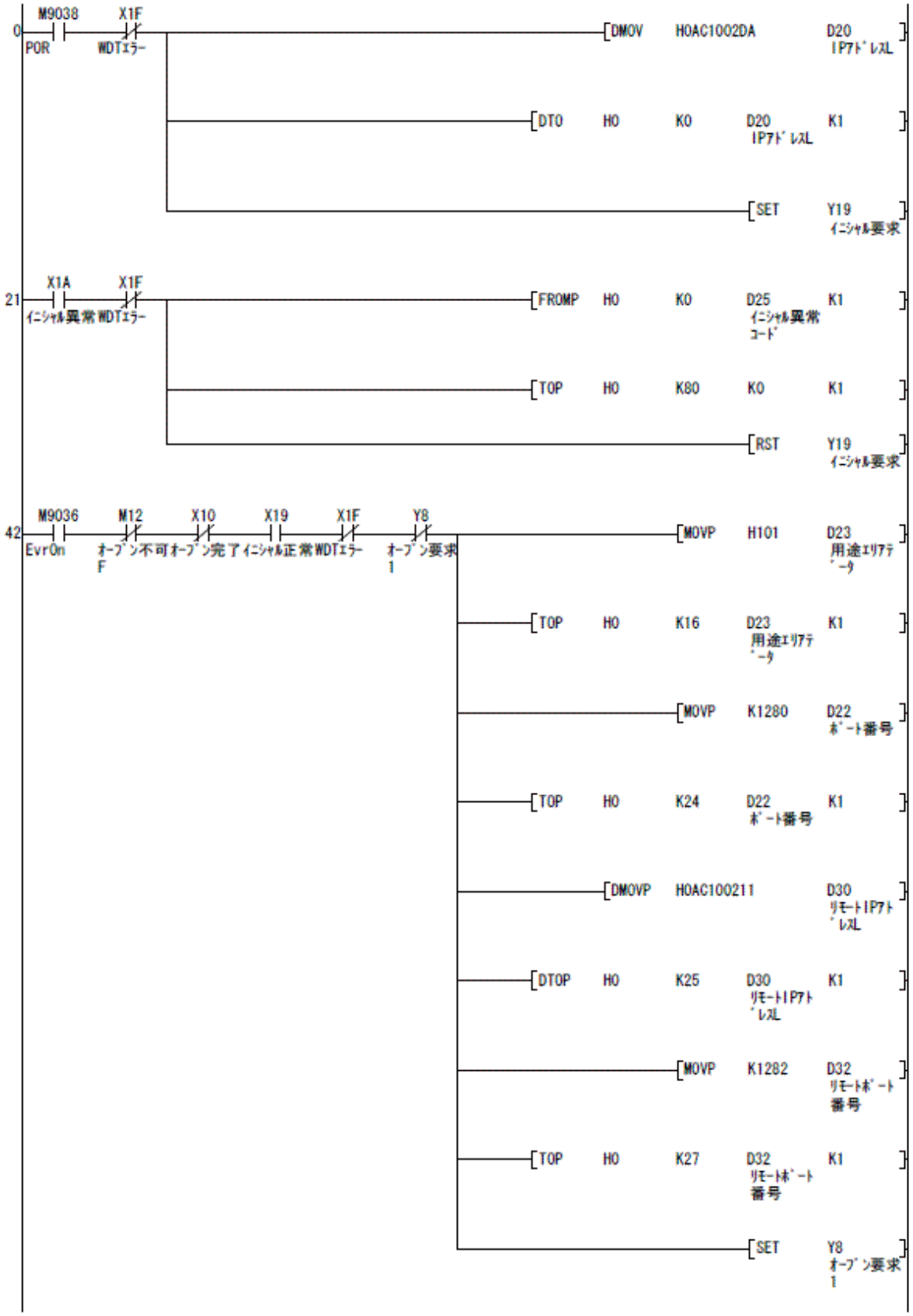
有限会社　ジュビック
http://www. jubic-inc. com

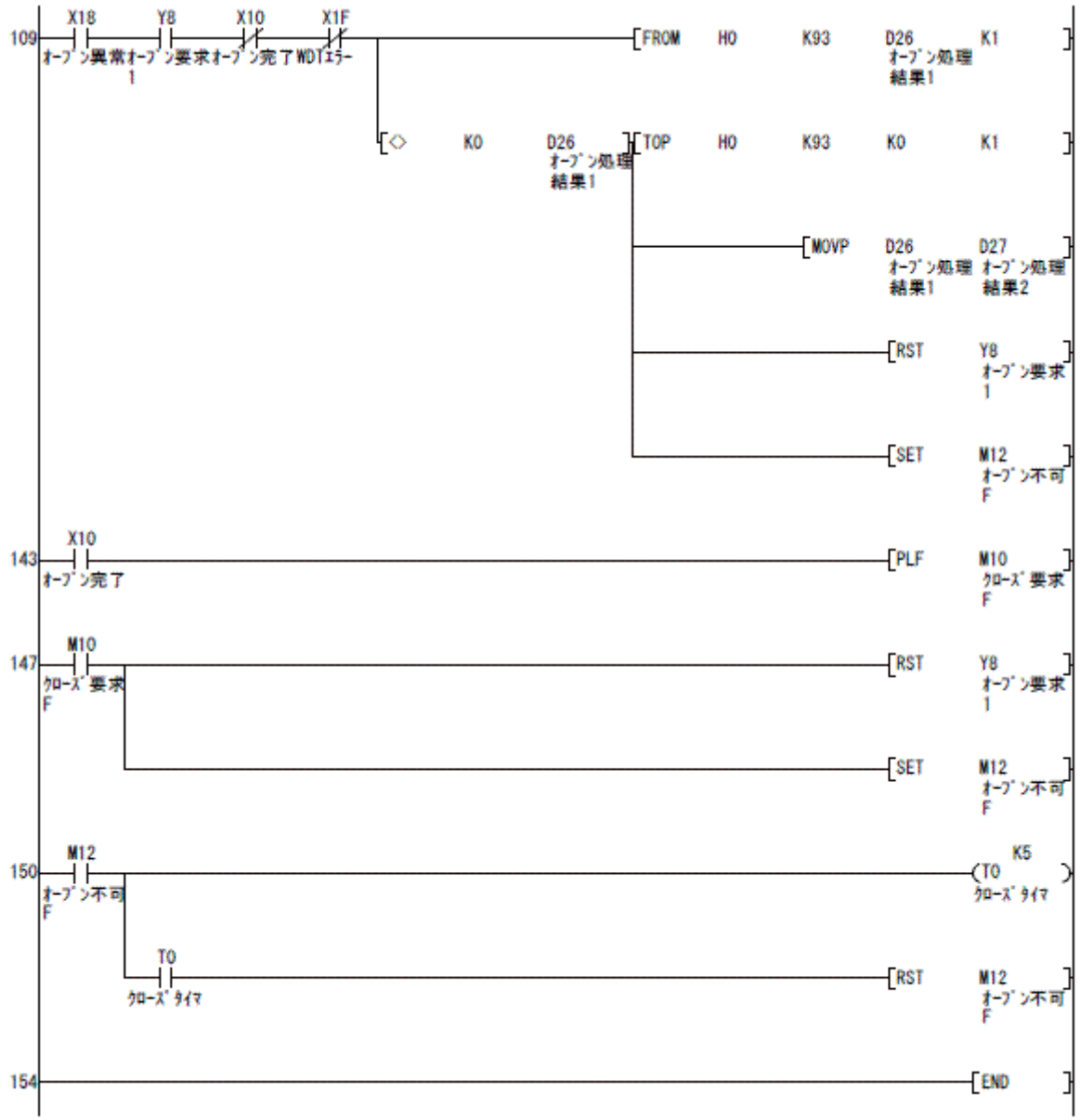
6　付録

6-1　Aｼﾘｰｽﾞ設定用のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ例　TCP/IP　（参考用）




77
X18
オープン異常1
Y8
オープン要求
X10
オープン完了
X1F
WDTエラー
FROM H0 K93 D26 オープン処理結果1 K1
<> K0 D26 オープン処理結果1
TOP H0 K93 K0 K1
MOVP D26 オープン処理結果1 D27 オープン処理結果2
RST Y8 オープン要求1
SET M12 オープン不可F
111
X10
オープン完了
PLF M10 クローズ要求F
115
M10
クローズ要求F
RST Y8 オープン要求1
SET M12 オープン不可F
118
M12
オープン不可F
K2
TO クローズタイマ
T0
クローズタイマ
RST M12 オープン不可F
122
END


0
M9038
POR
X1F
WDTエラー
DMOV H0AC1002DA D20 IPｱﾄﾞﾚｽL
DTO H0 K0 D20 IPｱﾄﾞﾚｽL K1
SET Y19 ｲﾆｼｬﾙ要求
21
X1A
ｲﾆｼｬﾙ異常
X1F
WDTエラー
FROMP H0 K0 D25 ｲﾆｼｬﾙ異常ｺｰﾄﾞ K1
TOP H0 K80 K0 K1
RST Y19 ｲﾆｼｬﾙ要求
42
M9036
EvrOn
M12
ｵｰﾌﾟﾝ不可F
X10
ｵｰﾌﾟﾝ完了
X19
ｲﾆｼｬﾙ正常
X1F
WDTエラー
Y8
ｵｰﾌﾟﾝ要求1
MOVP H101 D23 用途ｴﾘｱﾃﾞｰﾀ
TOP H0 K16 D23 用途ｴﾘｱﾃﾞｰﾀ K1
MOVP K1280 D22 ﾎﾟｰﾄ番号
TOP H0 K24 D22 ﾎﾟｰﾄ番号 K1
DMOVP H0AC100211 D30 ﾘﾓｰﾄIPｱﾄﾞﾚｽL
DTOP H0 K25 D30 ﾘﾓｰﾄIPｱﾄﾞﾚｽL K1
MOVP K1282 D32 ﾘﾓｰﾄﾎﾟｰﾄ番号
TOP H0 K27 D32 ﾘﾓｰﾄﾎﾟｰﾄ番号 K1
SET Y8 ｵｰﾌﾟﾝ要求1


109
X18
オープン異常1
Y8
オープン要求
X10
オープン完了
X1F
WDTエラー
FROM H0 K93 D26 オープン処理結果1 K1
<> K0 D26 オープン処理結果1
TOP H0 K93 K0 K1
MOVP D26 オープン処理結果1 D27 オープン処理結果2
RST Y8 オープン要求1
SET M12 オープン不可F
143
X10
オープン完了
PLF M10 クローズ要求F
147
M10
クローズ要求F
RST Y8 オープン要求1
SET M12 オープン不可F
150
M12
オープン不可F
K5 T0 クローズタイマ
T0
クローズタイマ
RST M12 オープン不可F
154
END